

国際交流

1997年 9月30日創刊
 2024年 3月31日発行(第46号)
 二松学舎大学国際交流センター
 〒102-8336東京都千代田区三番町6-16
 Tel: 03-3261-5751

◆目次◆

①2023年度 海外留学の報告	1	⑤2023年度 国際交流の会および懇親会の実施報告	12
②二松学舎大学と海外の大学との協定締結について 温州大学(中国)	1	⑥2023年度 日本語・日本学特別プログラムと国際日本学特別プログラム修了式および日本文化体験行事報告	12
③2023年度 派遣留学修了報告		日本語・日本学特別プログラム報告 浙江越秀外国語学院 王 東江	13
国際政治経済学部3年 本川 祐太(英国 バッキンガム大学)	2	日本語・日本学特別プログラム報告 嘉興大学 金 晶	13
国際政治経済学部3年 渡部ひなの(オーストラリア サザンクロス大学)	3	日本語・日本学特別プログラム報告 浙江財経大学 曹 悦	14
文学部3年 山田 美桜(韓国 成均館大学校)	4	国際日本学特別プログラム報告 山東財経大学 許 惠雅	14
④2024年 春期短期海外語学研修(英語・韓国語)報告		⑦2023年度 交換留学生報告	
アメリカ研修参加学生(サンフランシスコ州立大学) 宇野 裕紀	6	カフォスカリ大学(イタリア) キャッキャラレツリ・イレーネ	15
アメリカ研修参加学生(サンフランシスコ州立大学) 井上文由香	7	カフォスカリ大学(イタリア) ドスーアルド・ラウラ	15
韓国研修参加学生(建国大学校) 秋葉 珠莉	9	浙江工商大学(中国) 何 佩玲	15
韓国研修参加学生(高麗大学校) 島田 侑佳	10	成均館大学校(韓国) 全 永書	16
		⑧国際交流センターからのお知らせ	16

2023年度 海外留学の報告

海外渡航が可能となった2023年度は多くの海外の大学との交流が再開されました。

2023年度に本学学生を派遣した海外の大学：サンフランシスコ州立大学(アメリカ)、バッキンガム大学(英国)、サザンクロス大学(オーストラリア)、北京大学、(中国)、中国文化大学および銘伝大学(台湾)、成均館大学校、高麗大学校および建国大学校(韓国)。

2023年度に外国人留学生を受け入れた海外の協定大学：カフォスカリ大学(イタリア)、ボルドーモンテーニュ大学(フランス)、中国文化大学(台湾)、成均館大学校(韓国)。中国の大学からの受入れは以下の大学：浙江工商大学、嘉興大学、浙江越秀外国語学院、浙江農林大学、浙江財経大学、江西師範大学、紹興文理学院、浙大城市学院、山東財経大学。

二松学舎大学と海外の大学との協定締結について

中国浙江省の温州大学と海外協定を締結しました。



温州大学(中国)

1933年設立の「温州師範学校」が前身。温州市政府が共同管理する本科総合大学で、イノベーションモデル大学の指定校となっている。

2023年度 派遣留学修了報告



英国 バッキンガム大学

国際政治経済学部 国際政治経済学科3年
本川 祐太

1. 留学を終えた感想

現在は、日本に帰国して少しホッとする気持ちですが、本当に留学に行けて良かったと思っています。住み慣れた日本を離れてイギリスという全く新しい環境で勉強することは、簡単なことではなかったですが、多くの新しい経験をする事が出来て、語学力だけではなく様々な面で成長する事ができました。こんなに良い経験をする事が出来たのも、留学をサポートしてくれた家族や国際交流センターの方々、アドバイスをくれた先輩、友達のおかげなので、とても感謝しています。また、留学で得たものを今後活かせるように、引き続き、留学先で出来た友達と連絡を取ったり、海外のニュース等にアンテナを張ったりして、英語の学習を続けていきたいと考えています。

2. 留学を決めた理由

もともと海外の文化や歴史に興味があり、高校生の時から一度留学してみたいと思っていました。コロナウィルスの流行が落ち着いた大学2年生の初めの頃に、国際交流センターに留学についてお話を伺いに行き、そこでバッキンガム大学への長期交換留学プログラムに興味を持ち始めました。特に、世界中から学生が集まっているという事を伺い、とても魅力的に感じ留学を決意しました。

3. 留学先の学び・学習内容

ファウンデーションコースというプログラムで英国の法、政治、経済の基礎や英語での論文の書き方などを幅広く学びました。授業は科目ごとに講義形式のレクチャーと少人数クラスで議論を行うチュートリアルがあり、ヨーロッパ、アフリカ、アジアなど様々な国から来た学生と共に学びました。

4. 留学先の魅力や出会った人たちとの思い出

バッキンガム大学に留学する魅力は、イギリス人の学生だけでなく様々なバックグラウンドを持った学生に出会える事だと思います。普段の会話から、自分とは全く違う文化や考え方に触れる事が出来てとてもおもしろかつ

たです。また、友達とお互いに自国の料理を作って食べたのがとても印象に残っていて、インド人の友達が作ってくれたカレーがとても辛くて汗をかきながら食べたのを良く覚えています。

5. 留学のおすすめポイント

大学の休み期間に他のヨーロッパの国に旅行に行けるのも留学のおすすめポイントだと思います。イギリスからフランスはユーロスターという電車が通っていて片道約1時間半でフランスに行くことができます。また、もしサッカーファンであれば、プレミアリーグのスタジアム観戦は本当におすすめです。

6. 現地での生活について

私は、大学のキャンパス内にある寮に住んでいました。私の寮は窓からリスなどの動物が見られ、自然を感じられる落ち着いた雰囲気のある場所でもとても過ごしやすかったです。主に平日は授業を受けて、友達と図書館で課題に取り組み、週末は大学のイベントに参加したりオックスフォードなどの近くの街に出かけたりしていました。

7. 留学で成長した点

自分にとって、この留学は初めての海外経験でもあり、多くの新しい経験をする事が出来て、本当に様々な面で成長できたと思います。特に、英語力は大きく伸ばす事が出来ました。初めてイギリスの空港に着いた時は、事前に予約していたタクシーに乗るのに、運転手の方との電話で上手くコミュニケーションが取れずに3時間程



サッカーの本場でプレミアリーグを観戦！

かかってしまいましたが、留学の後半の頃にタクシーに乗った時には、運転手の方との会話を楽しめる程になっていました。

8. 留学する前に準備しておけばよかったこと

留学前に英語で長文を書く練習をもう少し出来ていればよかったと思います。留学中は、レポートや記述式のテストが成績評価の大部分でしたが、考えている内容がなかなか文章にできずに苦戦しました。その上、毎週の課題の量も多かったので、500単語程度でも英長文を書く練習が出来ていれば良かったと思います。

9. 留学前の自分に伝えたいこと

もう少しリラックスして大丈夫と伝えたいです。留学に行くことが決まってから、楽しみという気持ちと同時に様々な不安や心配事がありました。しかし、実際に留学前に不安に思っていたような事はほとんど起こりませんでした。

10. 留学を検討している後輩へのアドバイス

約一年間、日本を離れて海外で勉強する事は簡単に決められることではないと思います。実際、大変な事も多く経験しました。しかし、それと同等、それ以上に今まで経験した事のない新しい経験や今まで会ったことのないようなおもしろい人に会うことが出来、多くのものを得て、成長する事ができると思います。

11. 自身のプロフィール

国際政治経済学部、国際政治経済学科3年の本川祐太です。二松学舎大学では、主に法律、英語を中心に学んでいます。周囲の友達からは、お調子者、根は真面目な性格と言われます。サッカーが好きで、実際にプレーする事も、観戦する事も好きです。



オーストラリア サザンクロス大学

国際政治経済学部 国際政治経済学科3年
渡部 ひなの

1. 留学を終えた感想

オーストラリアへの一年間の留学を終え、様々な面において自分の成長を実感しました。すべてが楽しいことだけではなく、苦戦したことや悩んだことも多くありましたが、それを海外で乗り越えた経験はこれからの生活にも役立つし、何よりも自信に繋がりました。英語力の面でも1年間あると友達やホスト

ファミリーとスムーズにコミュニケーションを行えるようになり、楽しく過ごすことが出来ました。オーストラリアはミックスカルチャーな国だからこそ感じられる魅力もあり、日本人にとって暮らしやすい国だと思いました。一人で留学するのは不安でしたが、終えてみるとこれまでの人生で一番濃い時間になり、挑戦してよかったと思いました。この経験を有効的に使えるようにこれからも英語に触れて生活していきたいと思いました。

2. 留学を決めた理由

中学生のころから旅行や洋画がきっかけで留学したいと考えていましたが、休学せず留学できるプログラムがあることを知り、留学を決めました。オーストラリアに決めた理由は、気候や留学の期間、現地の文化などが一番挑戦しやすくて私にあっていて感じたからです。

3. 留学先の学び・学習内容

サザンクロス大学への留学では最初の10週間は語学プログラムを受講し、大学の講義を困らずに受けられるほどのエッセイやプレゼンテーションのスキルをつけました。Study abroadでは、1学期に2つの授業をとり、全部で4学期受けました。ほとんどはビジネスのクラスをメインに受講しました。課題は2週間に一度くらいの提出物（エッセイやポートフォリオなど）が多かったですが、毎日予習復習や英語の勉強をしていました。

4. 留学先の魅力や出会った人たちとの思い出

オーストラリアはいろいろな国の人が集まっている場所なので強い文化や宗教が少ないことや交流の場が多くありみんなフレンドリーなのが人の魅力です。海や山など自然がすぐ近くにあり、お店も沢山あるので生活に困ることもなく、イベントやマーケットも様々でした。特にナイトマーケットは日本では感じられない楽しさと手軽さが魅力でたくさん友達と行きました。

5. 留学のおすすめポイント

外国語を使えるようになりたいと思っている人はもちろんのこと、自分自身の視野、柔軟さ、行動力などの面においても成長できる場所です。また、周囲の人とフレンドリーに話せたり、日本ではできない体験をできたりと貴重な経験をできる場所も留学の魅力です。

6. 現地での生活について

一年間ホームステイをしていました。ファミリーとのきずなも出来、帰国した今でも連絡を頻繁に取り合うくらいの中になることができました。大学は、留学生がかなり多く、授業によっては日本人が集まっていました。

しかし、取る授業を考えるとオーギーや他の国からの留学生とも仲良くなることができました。また、最初の語学プログラムは少し忙しいですが、学部は少し時間に余裕ができたため、旅行に行ったり出かけたりビーチで遊んだりしてオーストラリアを楽しむことができました。

7. 留学で成長した点

大きく分けて語学力と自立の2点です。語学においては日常会話に困らないくらいのスキルは身に付けることができたと思います。日常的なコミュニケーションのほかに自主学習では英単語とリスニングに力を入れました。生活では、家事を自分でやることに慣れていませんでしたが、留学を通して当たり前になったり、考え方がフレキシブルになったり、行動力と計画力、精神力がいたり様々な面で自分を成長させられることができました。

8. 留学する前に準備しておけばよかったこと

現地ですぐに使える英語を学ぶためには、英単語と文法はある程度学習した状態で行く方が良かったと思います。現地で課題と並行して単語や文法を勉強するのは気持ち的にも少し大変で、継続力が必要でした。また、日本を紹介できるように日本のことをよく知ることもやっていた方が良かったです。

9. 留学前の自分に伝えたいこと

海外で生活するのは不安がありましたが、悩みすぎずに思い立ったら行動するくらいタフに生活したならなんでも乗り越えられるし、生活を楽しめると思います。英語が正しくなくても何も恥ずかしくないのでたくさんしゃべって、いろんな経験をしてください！

10. 留学を検討している後輩へのアドバイス

このプログラムでは大学側からのサポートが充実して



Family Dinner

おり、安心して挑戦できます。長期の留学で一番大変なのはホームシックになることだと思います。でも留学を終えるとそれ以上の価値のある経験と成長ができたと感じ自信もつくので、迷っていたら一度後悔しないように自分を信じて挑戦してみてください！

11. 自身のプロフィール

国際経営学部の渡部です。大学ではマーケティング論・イノベーション論を学んでいます。人見知りですが明るい性格だとよく言われます。趣味はダンスで、留学中にもそれをきっかけにたくさんの友達を作ることができました。留学を通して料理という趣味も増えました！



韓国 成均館大学校

文学部 中国文学科3年
山田 美桜

1. 留学を終えた感想

あっという間の1年でした。渡韓したときは不安でいっぱい、すぐにホームシックになりましたが、語学堂の授業が始まり友達ができると楽しいことが少しずつ増えていき、また、授業や課題に追われるうちに気が付けば夏休みでした。後期では大学での講義を受けました。語学堂と違い、韓国語のレベルが高く難しかったですが、予習や復習を欠かさず行うなど、自分なりに努力して無事に終わることができました。留学している間、1か月に1度のペースで韓国の様々な都市に旅行へ行き、ソウル以外の観光地を巡ることができました。学校や寮での生活、友人との休暇、旅行などを通して、勉強だけでなく韓国の文化など様々な面で学ぶことができました。

2. 留学を決めた理由

中学生の時に韓国に興味を持ち、高校生の時に韓国への留学をしたいと思い始めました。二松学舎大学の交換留学の制度は、語学堂と大学での授業の両方を受講できると知り、韓国語だけでなく文化なども学べることから、チャレンジしてみようと思い留学を希望しました。

3. 留学先の学び・学習内容

前期の語学堂では最初にクラス分けのテストを行い、自分の語学レベルに合ったクラスで勉強します。午前は文法、午後は会話を集中的に学習しました。課題は毎週あり、作文や動画を作成して提出します。クラスメートは様々な国籍の学生がいます。先生方は皆優しく丁寧に

授業をしてくださいました。

後期の大学での講義は選択した授業によって内容やプログラムは様々です。例えば私が選択した国語形態論では教授の授業を受け、小テストや論文の提出をしました。留学生用のプログラムでしたので正規留学生が大半でした。

4. 留学先の魅力や出会った人たちとの思い出

韓国には留学で初めて訪れました。ソウルは活気があり、特に大学周辺は他の大学もあるので若者が多く賑やかでした。語学堂で出会った様々な国の留学生とは、お花見に行ったり、学園祭に参加したり、買い物や食事に行ったりと楽しい時間を過ごしました。

5. 留学のおすすめポイント

語学堂は終日韓国語を勉強する場なので、集中的に学習ができ、早く自分の韓国語のレベルが上がるのを実感できます。国籍の違うクラスメイトとも会話は必然的に韓国語となり、お互いに切磋琢磨しながら成長ができます。前半の語学堂でしっかり語学を習得することによって後半の大学の授業も理解が深まるのでおすすめです。

6. 現地での生活について

私は学生寮に入りました。前期は二人部屋、後期は六人部屋でした。後期は中国の学生が二名いましたが、他はすべて日本人でした。寮の建物は清潔で部屋も狭くなく、快適に過ごせました。

一日のスケジュールは前期は9時から15時まで授業だったので、平日はあまり遊びに行くことはありませんでした。後期は授業によって時間が違いますが、私は遅い時間の授業が多かったので、午前中を寮で洗濯や掃除などをして過ごし、午後は授業へ行っていました。夕方以降、テスト前などはカフェ等で勉強をすることも多かったです。

週末は、私は1か月に1度程度は韓国国内の旅行へ行っていました。釜山や大邱、大田など、ソウルだけでなく様々な都市へ行き、観光できたのが良かったです。

7. 留学で成長した点

現地で集中的に語学の授業を受けたり、ネイティブの方々とのコミュニケーションをとることで語学力は飛躍的に成長しました。また、寮での共同生活や国籍の違う方々と過ごす中で協調性も備わったと思います。私は今まで一人で生活したことも、家族と長い間離れたこともありませんでしたので、見知らぬ国、見知らぬ人々との生活は私個人のあらゆる点で成長したと思っています。

8. 留学する前に準備しておけばよかったこと

韓国での物価高や、円安もひどかったので、生活費が予想していたよりも嵩み、留学する前にもう少し貯金しておけばよかったと後悔しました。留学前は留学先の物価や経済情勢などチェックしておくべきだと思いました。

また、留学を終えて、留学中に行きたい場所などを前もって考えて計画しておくべきだったなと思いました。行けなかった韓国の観光スポットがたくさんあるので、後悔しています。

9. 留学前の自分に伝えたいこと

留学前は、海外に行ったこともない状態でとても不安だったのですが、韓国生活では思っていたよりもたくさん友達もできるし、助けてくれる人もたくさんいるから、あまり不安がらずにいろいろなことに挑戦してみてください。

10. 留学を検討している後輩へのアドバイス

韓国での生活や、全部が韓国語で行われる授業など不安要素はたくさんあると思います。ですが、実際に留学してみると意外とすぐに体が適応していくし、友達も必ずできるので、あまり心配せずに挑戦してみてください。自分の言葉で現地の人とコミュニケーションを取りながら生活する経験はとても素晴らしいものですよ。

11. 自身のプロフィール

文学部中国文学科韓国語専攻3年山田美桜です。よくマイペースな性格だと言われます。好きなことはほとんど追求するタイプです。中学の頃から独学で、現在は大学で韓国語を学んでいます。趣味は韓国語を翻訳することと美術鑑賞です。



景福宮で友達と

2024年 春期短期海外語学研修（英語・韓国語）報告



アメリカ サンフランシスコ州立大学

国際政治経済学部 4年
宇野 裕紀

1. 留学を終えた感想

留学を通し、私は英語力を向上させることだけでなく、サンフランシスコの文化や地域の人々、価値観についての理解も深めることができ、非常に満足しています。

英語に関しては、これまで大学で英語特別プログラムを履修してきた甲斐もあり、分からなくて困るということはあまりありませんでした。しかし、「あるニュアンスをもっと強調して伝えたい」という時や、「考えを明確に伝えたい」という時に英語力がまだ足りないという実感がありました。三週間アメリカで過ごしたことで、自分の英語力の現在地を知る良い機会になりました。

また、日本とアメリカの文化や考え方の違いを数多く実感しました。日本より良いと感じるものや、逆に日本の方が良いと感じるものもあり、良いところは自分にも積極的に取り入れようと思います。また、来年度から私は就職しますが、サンフランシスコで学んだ多様性を大切に、人と関わる際に自分と異なる価値観を持っていても寛容に接することができる社会人になりたいです。

2. 留学を決めた目的と理由

目的は主に二つあります。一つ目は、「これまでの人生で学んできた英語の実力で、ネイティブ相手に円滑にコミュニケーションを取れるか確認すること」です。二つ目は「アメリカの文化や価値観を体感して理解する」ということです。また、私はもう大学4年生であることもあり、今の時期を逃したら今後このような機会はないだろうと考え、このタイミングでの留学を決めました。

3. 留学先での学習内容や教育研究活動

平日の午前は大学のキャンパス内で授業、午後は現地の学生たちに引率されながら校外学習という内容でした。午前の授業では、英語の学習、現地学生のパートナーと話しながらの学習、その他文化や身の回りのものに関する学習などをしました。午後は、サンフランシスコの様々な観光地、博物館、地区に行きました。そこで文化を学んだり、科学技術を学んだりしました。また、2週目の金曜日にはシリコンバレーのバスツアーに行き

ました。Apple Park, Google, Stanford Univ., Computer History Museum に行き、世界を動かしてきた企業について深く理解できた大変良い機会でした。

4. 留学先の魅力や出会った人たちとの思い出

サンフランシスコは誰に対しても寛容な街だと感じました。サンフランシスコにはあらゆる人種の人々がいて、私たちアジア人がいても全く浮くことはありません。アメリカの一部ではあるものの、歴史的な経緯によって世界中から人が集まった地がサンフランシスコなので、私たちも街に溶け込んでいる感覚を抱き、安心感を覚えました。現地では大学の先生、学生、ホストファミリー、そして地域で働く人々などあらゆる人々とコミュニケーションをとりました。特に、大学の学生たちと友達になり、課外でも数人でカラオケに行き世界的に有名な歌をみんなで歌うなどの思い出が特に印象的です。

5. 留学のおすすめポイント

英語力を伸ばす面と文化体験の面で、それぞれ異なるおすすめポイントがあります。英語力の面では、留学は多岐にわたるシチュエーションでのコミュニケーションが求められます。旅行では、せいぜい買い物やチケットの受付、レストラン、ホテルのチェックイン、出入国の審査くらいです。しかし、留学は英語を使って学び、友達と仲良くする必要がありますので、旅行より圧倒的に多くの英語に触れる機会があります。

また、留学は実際にその土地の住民のように暮らします。通学や洗濯などの旅行では経験しないようなこともし、その上でより多くの人と関わります。そのため、その土地について文化面で非常に深く理解できます。

6. 現地での生活について

日本と同じく、月曜から金曜に授業があり土日が休みです。授業日は、9時から11時45分まで大学のキャンパス内で毎日同じ先生による授業を受け、午後は大学の外に出て校外学習をしました。午前と午後の授業の間に昼休みがあり、この時間で昼食を食べます。その後1時15分～1時30分に再度集合し、午後の校外学習に出かけます。その際は、バスや路面電車などの公共交通機関を使います。

土日は授業がなく自由に過ごせました。お土産を探しに行ったり、行ってみたいレストランに食べに行ったり、ショッピングを楽しんだりしました。

今回はホームステイを利用し、夜は食事を作ってくれ



先生および三週間のプログラムを終えた仲間

ました。朝もお家にあるパンやシリアルを自分で用意するので、お金は追加でかかることはありません。しかしそれも強制というわけではなく、ディナーを友達と食べに行くことも可能です。食事の際は、ホストマザーとの会話を楽しみました。

7. 留学で成長した点

今回の経験を通し、英語力に関しては、自分の言いたいことを相手に伝える能力、相手の話を聞いてそれに応じる能力が特に成長しました。また、異なる価値観を持つ人に対する寛容性が増したという成長を感じています。サンフランシスコでは、あらゆる見た目や心情、バックグラウンドを持つ人たちが何の隔たりもなく交流している姿を常に目にしました。グローバルな生き方をする上で、このような姿勢を持つ必要があることを学べたのが大きな成長です。

8. 留学する前に準備しておけばよかったこと

英語のより日常的な表現や単語を学んでおくべきでした。これまで学んできた英語は正しい英語であるものの、それゆえにネイティブスピーカーに砕けた表現で喋られると分からない時もありました。日本語もそうですが、言語は日々意味合いや表現が変わり続けるものなので、常に最新の英語表現や単語をネットなど使って学んでおくべきでした。

9. 留学前の自分に伝えたいこと

留学の目標を具体的に定めておけると言いたいです。「英語力を伸ばしたい」「サンフランシスコの人々のライフスタイルや考え方に触れて理解したい」といった抽象的な目標はあったものの、具体的に達成したか否かがわかる目標を定めるべきです。

10. 留学を検討している後輩へのアドバイス

英語の学習に関しては、日本で生活している上で発する言葉や言われる言葉を振り返ってみて、それを英語で言えるようにしておくが良いです。日常の中で伝えたり伝えられたりする事は、日本でもアメリカでもさほど変わりません。それさえできれば、留学の最中に困ることはほとんどありませんし、その分英語での会話を楽しめるようになります。

11. 自身のプロフィール

二松学舎大学 国際政治経済学部 4年、宇野裕紀と申します。私は国際政治を専攻しており、特に政治の背後にある文化、そして文化遺産保護などに興味があり勉強しています。そのきっかけとして、世界遺産検定の勉強があります。高校生の頃に友達に誘われ勉強を始めたところ非常に楽しくてどハマりし、大学2年生の頃には世界遺産検定1級も取得しました。それと同時に、学んだ世界遺産を実際に見たいと思い、旅行に行くのが趣味です。しかしながら金銭的にも行ける頻度は限られるので、普段はサイクリングに行ったり友達と様々なスポーツをしたり、音楽を聞いたりしています。



アメリカ サンフランシスコ州立大学

国際政治経済学部 国際経営学科2年
井上 文由香

1. 留学を終えた感想

留学をしてみて、まずはじめにアメリカへ行ったこと・留学すると決めたことにとっても意味があったと感じました。知らない環境で不安な中、分からないことや困ったことがあったとしても、それ以上に体験したことのないその場所ではしか味わえない新しい経験をすることができました。サンフランシスコ州立大学では午前中に授業をし、午後はサンフランシスコの歴史や文化を知れる場所へ実際に行きました。授業では英語でのゲームやコミュニケーション、動画鑑賞などを行いました。アシスタントとして外国人数名が日替わりで一緒に英語を教えてくれていました。最初は日本語が通じないので英語だけの会話に苦戦しました。相手の言いたいことを意味を理解することも、自分の考えを伝えようとするのも難しかったです。しかし、そこで諦めることなく何度も会話を試みたりボディランゲージを試みたりすることで少しずつ互いに理解し合うことができるようになりました。サンフランシスコで訪れた場所はどれも思い出に残るもので貴重な体験ができたと感じ

ます。留学先で出会った人たちとも良い関係を築くことができ、自分自身の価値観や考えの幅を広げるきっかけにもなったと思います。

2. 留学を決めた目的と理由

アメリカに留学することは、幼いころからの夢でした。物心ついた時から気が付けば海外特有の文化や価値観、人や物、雰囲気などに魅力を感じていて、実際に自分がその場所に行くことで、より視野を広げるきっかけになれると感じ、留学を決めました。

3. 留学先での学習内容や教育研究活動

午前中に教室で英語を学び、午後は様々な場所に訪れるのが基本的な活動でした。授業では、動画を見てサンフランシスコという場所の良さや外国の価値観を知ることができたり、先生の他に毎授業アシスタントとして教えてくれる方々とよくコミュニケーションをとりながら課題に取り組んだりし、実用的な英語を学びました。

4. 留学先の魅力や出会った人たちとの思い出

サンフランシスコで見たもの触れたものすべてが自分にとっては新しく新鮮でした。日本にはない魅力をサンフランシスコだからこそ感じることができました。クラスメイトは全員日本人で、アシスタントや先生と会話する際に協力し合うことでより中も深まり、時間が経つごとに関係が充実していきました。

5. 留学のおすすめポイント

今回 MUNI という交通パスカードが支給され、特定のバスなどには交通費をかけることなく乗れました。ピア39という場所でのクルージングはゴールデンゲートブリッジを近くで見ることができ、サンフランシスコらしい体験や食べ物や雰囲気を味わえます。



exploratorium の前で集合写真

6. 現地での生活について

私は今回ホームステイをしました。ホストファミリーの夫婦はとてもやさしく、分からないことを聞くと分かるまで何度も丁寧に説明してくれました。週末は、学校では訪れない場所に行きました。MOMA という美術館では近代的で面白い作品を見ることができました。チェイスセンターという場所でプロのバスケの試合観戦をしに行ったこともとても印象に残っています。

7. 留学で成長した点

リスニング力が特に成長したと感じています。テレビで流れてくるニュースも外へ出て聞こえてくる声も、ホストファミリーや授業中も、留学先では常に英語に触れていたため、自然と耳が慣れていき今は行く前よりもリスニング力が上がっていると思います。

8. 留学する前に準備しておけばよかったこと

とっさに英語が分からなくなりうまく伝えられないことや、完全に理解できない時がありました。いろいろなケースを想定して、行く前から使えるようなフレーズを良く復習しておくべきだと思いました。また、英語の音楽や映画を聞いたり見たりすることも役立つと思います。耳が慣れて学びに繋がるだけでなく、現地の人との会話のきっかけにもなります。

9. 留学前の自分に伝えたいこと

サンフランシスコに行く前は、すべてにおいて無知で不安だったけれど、実際に行ってみると周りの人たちが沢山手助けしてくれて不安も解決してくれるし、不安よりも楽しいことや面白いこと、知らなかったことを知れる新しさなどが上回って、期待以上の体験をさせてもらえるから、行く前は不安でも行く価値はあると伝えたいです。

10. 留学を検討している後輩へのアドバイス

国際交流センターの方、ホストファミリーや現地の先生など、頼れる人は沢山います。留学先で会う新しい友人と様々な経験もできます。行く前は不安なことばかりで、分からないことがあるかもしれないけれど、知らない場所に行くというだけでとても意味のある行動だと思うし、行った後は日本に帰るのがもったいないと思えるほど充実した日々を過ごせると思います。英語は完璧にできなくても、英語をもっと知るきっかけになると思います。

11. 自身のプロフィール

国際政治経済学部国際経営学科に所属しています。経

営を学びながら、外国語も勉強しています。私はマイペースで、楽しいことが好きで、内向的です。音楽を聴いたり映画を見たり、買い物をするのが趣味です。海外に興味関心を強く持っています。



韓国 建国大学校

文学部 中国文学科3年
秋葉 珠莉

1. 留学を終えた感想

中学生の頃からずっと憧れだった韓国への留学という夢をやっと叶えることができました。ずっと憧れだったにも関わらず、出発直前には不安で仕方なかったこともありましたが、実際現地に着くと、同じ意志を持った仲間たちと共に同じ目的に向かって勉強するのがどれだけ楽しいか実感しました。授業だけでなく、お昼ご飯や放課後など、学校外での学びも多く、現地で学ぶのは大切なことだと感じました。2週間という短い期間でしたが、ほぼ毎日いろんな場所に行き観光をすることもできました。友達も沢山できて、短い期間でもとても充実させることができました。夏季の留学もあればぜひ行きたいくらい建国大学の留学はとても楽しかったです。

2. 留学を決めた目的と理由

元々KPOPが好きで、韓国語を独学で勉強していたため、韓国に留学するのが夢でした。編入をしてこの大学に入ったこともあり、短期でもいいので現地で語学を勉強したかったため、今回の建国大学への短期留学を決意しました。

3. 留学先での学習内容や教育研究活動

初日はオリエンテーションと対話でのレベルチェックテストでした。オリエンテーションでは建国大学のパーカーをもらうことができました。レベルチェックテスト後、それぞれのクラスに分けられ、授業が始まります。今回は3クラスに分けられ、私のクラスでは始めに自己紹介から始まりました。その後から本格的な授業が始まるのですが、先生が学びたいことや教えて欲しいことがあればリクエストを受け付けてくださって、実際のカリキュラムだけではなく生徒の意思に沿って進めてくださりました。授業は全て韓国語で進みました。宿題はほぼ毎日出ているのですが、私は毎放課後遊びに出ている程なので、そこまで苦になるほどのものではないので、構えなくて大丈夫だと思います。クラスのみんなは、私の

クラスは1番レベルが高いクラスだったのですか、韓国語を話せる人が沢山いて、すごくいい刺激になりました。韓国語をほとんど話せない、読めない子達も授業に着いていけるので、自分にあったレベルで勉強を進められると思います。先生はできるだけ簡単な韓国語を使ってくださり、一生懸命に教えてくださるので、授業に行くのがとても楽しかったです。

4. 留学先の魅力や出会った人たちとの思い出

建国大学は、学校の周りだけでもホンデや明洞に行かなくても学生達が楽しめるようなお店が沢山あります。隣の駅には最近若者に人気のファッションブランド店が沢山あるソンスや、ホンデや東大門までは電車一本で行けるため、とても便利が良かったです。大学の近くにはイーマートがあり、何か足りないものがあればそこで全て手に入るの、身分証明書以外の忘れ物があっても安心して大丈夫です。

サポーターの皆さんは親身になって話を聞いてくださるので、何かトラブルがあったりしても色々対応して下さるので、何か困ったりしたことがあったらすぐに相談すると良いと思います。

5. 留学のおすすめポイント

やはり現地で学べるという点が1番大きいと思います。同じ意志を持った仲間たちと学ぶので、日常会話に韓国語を入れて会話をします。日本人同士で出かけたのに韓国語しか使わなかった時もありました。それだけ成長できる機会が1番多いのが留学だと思います。また、勉強だけでなく観光もできるのは魅力的なポイントだと思います。近くにソンスがあるということもあって、カフェに行ったり服を買ったりなど、本当にいろんなことができました。

6. 現地での生活について

宿泊先では、トイレトーパー二つ、タオル2枚、歯ブラシと歯磨き粉、固形石鹸、ティッシュ(大きいもの)が配給されました。布団も準備されていたのですが、とても薄く、二月の韓国を過ごすには寒かったのでエアコンを付けたまま寝ました。部屋は2人部屋で、大きな勉強机があります。門限は25時です。

授業は朝10時から始まり、50分授業の10分休憩、11:50~14:00まで長めのお昼休みと、14:00~16:50まで午後の授業があります。お昼は学食を食べたり、学校の外のご飯屋さんに行ったりしました。

今回行ったタイミングで旧正月と重なったため、旧正月の時期はやっていなかったり時間短縮しているお店がいくつかありました。オリーブヤングなどの大きな系列

店はやっているのに、旧正月行くのが難しそうなお店は避けて、そう言ったお店に行くのを勧めます。

7. 留学で成長した点

ずっと韓国語を聞いて話していたので、確実に韓国語のコミュニケーション能力は上がったと思います。また、初対面の人と話すのにも慣れたと思います。コミュニケーションだけでなく、雰囲気などももちろん全て本場だったので、日本にいて韓国語を勉強するだけでは学べないことを沢山学べたと思います。

8. 留学する前に準備しておけばよかったこと

韓国人の友達を作ることです。あらかじめできるだけ多くの韓国人の友達を作っておくと、美味しい店を教えてください、おすすめのところ連れて行ってくれます。韓国語を使って会話することになるので、同年代の友達を作れば流行っている言葉などよりネイティブなものを学べると思います。

9. 留学前の自分に伝えたいこと

あれだけ不安がってたけど、いざ行ってみると本当に楽しくて仕方ないし、時間が足りなくて行きたいところ全部回れないくらいだから、全部リストに出して1人でも良いから行った方がいい！あとお金とか自分のものはしっかり線を引いて、いくらルームメイトでも初対面の人なんだからそういうところはちゃんとして、ストレスを溜める前にやばいと思ったらサポーターの人に相談して！

10. 留学を検討している後輩へのアドバイス

建国大学の留学は本当に楽しいです！出会えた仲間も良い人たちだらけで、日本に帰ってきてでも会おうという約束を沢山しました。本当に良い経験になると思います。今度は1人で渡韓も考えているくらい慣れることができる機会です。ぜひ行くことを勧めます。



SMのKWANGYA内

11. 自身のプロフィール

二松学舎大学中国文学科3年秋葉珠莉、INFP、中国語と韓国語を勉強しています。編入前は短大で英語を勉強していました。POP、HIPHOP、KPOP、K HIPHOP、KR&Bが好きです。



韓国 高麗大学校

文学部 中国文学科2年
島田 侑佳

1. 留学を終えた感想

留学先の大学での授業は韓国人の先生が、全て韓国語で行いました。最初は「聞き取れなくて、授業についていけなかったらどうしよう」、「単位が修得できなかったらどうしよう」など不安な気持ちでいっぱいでした。ですが、先生方がゆっくり、簡単な単語で話してくださったおかげで授業の内容を理解することができ、無事単位を修得することができました。また、クラスの生徒は全員日本人で休み時間たくさんお話をして仲良くなりました。KPOPが好きで多く、アイドルの話をして盛り上がりました。東京から来た人から、大阪、京都、高知など、色々なところから留学に来ている人がいました。先生方も生徒のみんなも1カ月を通してすっかり仲良くなったのに、もう簡単に会うことができなくなってしまうと思うと悲しいです。みんなとカトクやインスタを交換したので連絡を取り合おうと思います。

2. 留学を決めた目的と理由

小さいころから韓国が好きで、韓国語が学べて韓国留学ができる大学をずっと探していました。日本で独学で学ぶより、実際に現地の大学へ通い、現地の人々と関わった方が学びを深めることができると考えたからです。

3. 留学先での学習内容や教育研究活動

平日月曜日から金曜日まで授業があります。月、水、金曜日は9時から13時まで、火、木曜日は9時から13時まで授業を受けた後、1時間お昼休憩を挟み、14時から16時まで午後授業がありました。毎日の9時から13時までの授業ではテキストの内容を進め、火、木曜日の午後授業では先生が作成したプリントを解いていました。宿題は週末にプリント1枚だけ出しました。クラスメートは東京、大阪、京都、高知など、色々なところから留学に来ている人がいました。先生は、1、2限の先生が同じで、3、4、5、6限の先生が同じでした。担

任の先生は3、4、5、6限の先生でした。

4. 留学先の魅力や出会った人たちとの思い出

韓国で出会った人はどなたも優しくかったです、一番思い出深かったのはトウミです。トウミで出会った子は日本語が日常会話レベルまで話せて、日本の若者用語や流行語まで知っていました。私はすごく感銘を受けて、自分ももっと韓国語の勉強を頑張らなきゃいけないという風に感じました。また、優しくして元気で機転が利く子でした。人として学ぶべき点が多かったです。数回しか会ったことがないのに、昔からの友人のような気がして最後に会った日には「もうしばらく会えないのか」と思い、悲しくて泣いてしまいました。私が韓国旅行に行ったときや、彼女が日本旅行に来てくれた際には必ず会おうと約束しました。これが韓国留学中の私の一番の思い出です。

5. 留学のおすすめポイント

日本に住んでいるとなかなか現地の人の韓国語を聞き取り、会話を交わす機会はないと思います。留学中は毎日韓国人の韓国語を聞き取り、会話を交わすのでリスニング力とスピーキング力がかなり鍛えられました。私も留学前はリスニング力とスピーキング力が皆無でしたが、留学中に鍛えられた為、日本に帰ってきてから好きな韓国アイドルとオール韓国語でお話しましたが、ちゃんと会話が成立しました。リスニング力とスピーキング力を高めたい、現地の人と会話を楽しみたいという方には、是非留学することをおすすめします。

6. 現地での生活について

留学先の大学では、ホテル宿泊の人が多く見受けられましたが、私はホストファミリーで韓国のお家に実際に住まわせていただきました。ホテルは旅行で来た際にいつでも宿泊できますが、お家に実際に住まわせていただくことはなかなかないので、良い経験になりました。平日は学校を終えた後友達と遊びに行っていました。週末も友達と遊びに行っていました。休むことなく毎日予定が入っていました。今回一緒に留学しに行った二松学舎大学の友達はもちろん、韓国人の友達とも遊びました。

7. 留学で成長した点

5番で申し上げた通り言語力はもちろんですが、行動力もかなり成長しました。私は韓国には、コロナ前に1回家族と旅行で行ったきりで、その時は道案内など全て家族に任せていたので今回がほぼ初渡韓のようなものでした。家から学校までは電車とバスの両方を使わなければならない為、電車とバスの両方の乗り方を熟知しまし

た。友人とはみんな住んでいるところが違う為、1人で行動することも多かったです。また留学中、好きな韓国アイドルに会いに1人で京畿道まで行ったことは良い思い出です。

8. 留学する前に準備しておけばよかったこと

よく準備をしていたので、特にありません。

9. 留学前の自分に伝えたいこと

何故かよく分からないけど凄まじい勢いでお金が減っていくのでちゃんとバイトしてお金を貯めた方がいいです。韓国は3分歩けばカフェがあるので誘惑がいっぱいです。誘惑に負けないでください。たくさん写真と動画を撮るのでスマホの容量を空けておきましょう。

10. 留学を検討している後輩へのアドバイス

留学に行くかどうか迷っているようでしたら、絶対に行った方が良いです。また3年生のこの時期は就活で忙しくなるので、1、2年生のこの時期に行くことをおすすめします。私は間違いなく人生で一番楽しくてあっという間な一カ月間になりました。日本の友人に「鋼のメンタル」と言われるくらいには泣かないですが、今回帰国することがとても悲しくて大泣きました。それくらいに韓国留学は楽しいです。

11. 自身のプロフィール

私は大学で韓国語を専攻しています。性格は少しせっかちで、友人からはギャルと言われますが認めていません。趣味は美容と踊ることとアイドルオタクです。美容が大好きで、美容部員のアルバイトをしています。またダンスサークルに所属しています。好きなアイドルは何グループかいますが、今一番応援しているのはP1 Harmonyです。



修了式を終えた後、クラスの仲いいメンバーで撮った写真

2023年度 国際交流の会および懇親会の実施報告

本学主催の総合的な国際交流行事である「国際交流の会」は創縁祭の開催にあわせ実施。また、終了後は、本学留学生と父母会役員、関係教職員、本学学生等との懇親会を実施しました。外国人留学生にとっては、学内での交流を深め、日本での生活も異文化交流の機会となりました。ピンゴ大会では会場内の盛り上がりは最高潮となりました。



2023年度 日本語・日本学特別プログラムと 国際日本学特別プログラム修了式および日本文化体験行事報告

2023年度は、入国制限措置の緩和により、外国人留学生の来日が全面的に可能となり、4年ぶりに1年間の受入れが実現しました。計9つの大学から総勢34名の留学生を受け入れました（嘉興大学、浙江越秀外国語学院、浙江農林大学、浙江工商大学、浙江財経大学、江西師範大学、紹興文理学院、浙大城市学院、山東財経大学）。留学生のみなさんは授業だけでなく、異文化交流活動やアルバイト活動を通じて、日本の生活や様々な文化を体験しました。2024年1月26日には修了式を実施し、終了後は、本学の学生と日本文化体験行事として、茶歌舞伎体験に参加しました。参加学生からの報告は別ページに掲載しています。





留学報告書

浙江越秀外国語学院 王 東江

私が日本にきたのは2023年で大学3年生の時でした。日本は、先進国で生活水準が高い国として知られ、日本で留学や就職の希望をする若者がとても増えていました。私の留学期間は約1年間で、長い期間ではありませんが勉強もアルバイトも頑張っていたので充実した留学生活を送ることができました。

授業内容は基本的に、日本語や日本文化などについてです。色々な国から来た留学生と一緒に勉強をするので、異文化の理解もでき、国際交流と外国人の友達を作る機会にもなります。二松学舎大学でも同様に、色々な国から来た仲間と日本語、日本の文化、日本のマナーなどについて学ぶことができます。

授業の他には、学校が主催するイベントがあります。例えば、茶道や歌舞伎や名所を見学すること、交流する活動などです。非常に楽しい留学生活です。

日本は自然に恵まれた美しい国です。交通機関もとても便利なので、いろいろなところに行ったことがあります。景色のよいところを見て、おいしい食べ物を食べて、日本での留学生活を楽しんでください。私が生活している東京では、日本のなかでもおいしい食べ物が多く集まっています。遊ぶエリアもたくさんあり、充実した毎日を過ごしています。



富士急ハイランドにて



留学報告書

嘉興大学 金 晶

大学三年生の時に学校の交換留学に参加することに対して私はとても嬉しいですが、日本に来たばかりの時は少し緊張がありますが、二松の先生はとても責任を持って、私の生活の上でよく知らない問題を解決して、私の学校の学習の面で疑問を解きました。

振り返ってみると、この一年は私にとって貴重な一年でした。最初は日本の生活を体験し、より多くのことを学ぶことが目的でした。10か月の学習と生活を経験しました。

この一年間、コミュニケーションのために言語を勉強しなければなりません。日常の基本的な日本語だけでなく、日本文学についての深い知識も必要です。論文を読むためには、たくさんの情報を自分で読むように努力しなければなりません。知らず知らずのうちに、私はいろいろな方面の知識と技能の学習を強化しました。その中で私はメディアの方面の知識に対して比較的に興味を持って、だから申し込んで選択した松本健太郎先生の開設するいくつかの選択科目を選択して、彼はメディアの歴史の変化と開拓の教学に対して私に啓発を得させます。日本語の基礎知識を教えてください。関裕子先生も真面目で、丁寧に私たちに教えてください。本当に感謝しています。私たちは一年間で成果があったと思います。

日本に留学に来て、私はとても成長しました。私が一年間の豊富な経験と知識を得ることができたのは、友達サポートと先生のお世話があったからです。最後に、この一年間、いろいろお世話になりました。日本でこのような学習経験と体験ができたことは、とてもいい思い出になりました。ありがとうございました。



富士山の前で クラスメイトと一緒に



毎日の留学生活を楽しむ

浙江财经大学 曹悦

昨年4月からはじめに来日して、今日までの10ヶ月の留学生活はあっという間に過ぎました。この数ヶ月を振り返ってみると、毎日は充実した生活を送りました。初めての日に空港から電車を乗って、窓の外の風景を見る時の気持ちがよく覚えています。この前ドラマで見た世界に入って、新鮮な感覚に満ちています。

授業が始まると、最初には先生のしゃべり方が早いと思って、2週間後には徐々に慣れてきました。先生たちみんながやさしくて、中国と異なること授業の雰囲気を感じました。一番印象に残っているのは都市文化デザインという授業です。授業の期末レポートの内容が中華街案内文のため、友達と横浜中華街に行つて体験したこそ論文を書くことができます。この形はとても面白いと思います。

暇の時にはいろいろなところを旅行し、日本文化をよく体験しました。5月に富士山、8月に熱海の花火大会を見に行きました。そして、10月に大阪に行つて関西文化を体験したり、京都で着物を着て歩いたり、奈良で鹿にせんべいを食べさせました。今年の1月には北海道に行つて、大好きな映画『ラブレター』の撮影地に行きました。旅行中に撮った写真を見るたびに、あの時の思い出が浮かびます。

また、私は勉強の合間に、コンビニエンスストアでアルバイトしていました。店内のスタッフたちは辛抱強く商品の前陳とレジの仕方を教えてくれました。アルバイトをしながらも自分のコミュニケーション能力を鍛えています。この六か月の経験はいつまでも覚えています。



京都で着物を体験



忘れがたい光陰

山東财经大学 許惠雅

一年間の留学期間は慌ただしく過ぎて、私は日本に対する未練を持って中国に帰った。二松学舎大学での日々の中で、先生達の親切な挨拶と心を込めた教え、学友達の笑顔はすべて異国の人からの友好を感じさせた。また、国際交流センターは留学生の日常生活によく関心を持っていて、時々学生寮でパーティーを催して、楽しませてくれたのだ。アパートに住んでいる他の住民と会話をしたり、生活の面白さを共有したりすることで、異なる国から来たながらも日本に住んでいる人たちが、独特な個人体験をシェアしていた。これは意味があることだと思っていた。

勉強を除いて、日本という国への好奇心と探求心から、多くの地方に旅行に行った。関東地方や関西地方、東北地方、そして北海道までも旅をした。日本の美しい風景や素朴な町並みには見どころがあった。

所々にある大小の神社やお寺から、日本百姓の暮らしへの最も素朴な祈念を感じられた。将来を望むからこそ、今の生活を頑張れるのだろう。

学生寮から地下鉄の駅までの風景が好きだった。学校が用意してくれた寮は、東京から少し離れていたが、電車を乗り換えなくてもいいからかまわなかった。冬になると街路のイチョウの木が緑から黄色に変わったり、枝が茂る状態から裸になったりと、歩いていると季節の移り変わりが実感できた。これが一番好きなことだ。

交換留学生として一年間滞在しただけだが、日本での楽しい時間をいつまでも忘れない。母校と貴校が私たちにこのような貴重な学習・体験の機会を与えてくれたことに感謝している。



友達との旅

2023年度 交換留学生報告

留学との友達

カフォスカリ大学 キャッキャラレツリ・イレーネ

日本に行くのは初めてでした。この経験がとても楽しかったので、コース構成がイタリアの大学とはコース構成が異なります。もちろん、日本人とのコースに参加することは難しかったです。一方で、そのコースに合格することにとっても満足しています。学生生活は楽しかったのです。留学生向けのクラスでは友達になり、「私の故郷」を紹介するととても興味津々の様子でした。コースは刺激的で、先生たちはとても忍耐強く接してくれました。ソーシャルレジデンス成田ではたくさん友達を作ったのです。今でも連絡を取り合っていますし、将来またいつ会えるかすでに計画しています。そこではたくさんのイベントに参加したので、退屈することはありませんでした。寮の友達と一緒に浅草やお台場を訪れ、イタリア人の友達と一緒に鎌倉など他の場所を訪れました。その場所を訪れることが一番好きなことだったと思います。クリスマス期間中はたくさんのイルミネーションを見ることができましたが、新宿御苑と六本木ヒルズが一番美しかったです。日本での生活はとても楽しく、イタリア人の友達と一緒に浅草で着物を着たり、両国のもんじゃ焼きなどの代表的な料理を食べたり、明治神宮での初詣にも出かけたり、様々な経験をすることができました。時間が足りなかったと思うので、できるだけ早くまた日本に行きたいです。



左から2人目 キャッキャラレツリ・イレーネさん
右端 ドスーアルド・ラウラさん

日本での体験

カフォスカリ大学 ドスーアルド・ラウラ

イタリアから旅は長い時間がかかって、飛行機で16時間で、ついに日本に来ました。二松学舎からのスタッフは成田空港から寮まで車で迎え行ってくださって、疲れたのでよかったと思います。寮は大学から1時間ぐらいかかるので初めは大変でしたが、だんだん毎日通勤

電車を使うことに慣れました。寮で世界中からのたくさん人がいて、日本語だけではなく英語と他の言語も進歩ができました！寮でよくパーティするので、他の人と出会うこと、友達を作ることは簡単です！それで、たくさん友達ができ、よく一緒に出かけました。大学での他の留学生に付き合っ、先生も優しく、よかったです！日本語授業はいつも面白かったので、日本語が上がると思います。また、日本人の生徒と一緒に文学の授業に通って、授業の日本語のレベルは高かかってはわからなかったところは先生が手伝ってくださって、よかったです！そして、二松学舎の食堂は便利、安い、美味しい、毎日そこで昼ごはん食べて、嬉しかったです！日本でたくさん経験をして、例えば着物を着る、原宿、渋谷、新宿、浅草に観光する、友達と一緒にディズニーランドに遊ぶ、鎌倉で神社と寺を観光する、動物園に行く、そういう風に楽しかった経験たくさんあります！ですが、定期券、家賃、買い物する、観光ためのチケット、それをするためにたくさんお金を使って、大学で勉強しながらアルバイトをしたら助かれたらと思うます。帰国前に、寮に住んでいるの友達が「さようならパーティ」を行なって、その夜は一緒に食べて、酒を飲んで、カラオケへ行って、ずっと楽しかったです！日本で集まった記憶は全然忘れません。ずっと心に残ります。



留学報告書

浙江工商大学 何 佩玲

日本に留学することは、私にとって忘れられない経験の一つだった。大学と大学院の時にずっと日本語を専攻して、日本に深い興味を持ち、日本へ留学したい気持ちを持っている。初めて日本に来たとき、異なる文化や生活様式に触れ、日本語で日本人と順調に会話できるかという不安があったけど、やさしい日本人と付き合い、うまく話せるようになり、新しい生活も楽しむようになった。

留学の時に、二松学舎大学の学生と江戸建物園に出かけて、中国文化にも興味ある日本人と知り合い、いろいろ交流して、異なる国や文化についてより深く理解した。また、留学している間に、大阪、京都、横浜や北海道などいろんなところへ旅行に行き、楽しい思い出をたくさ

ん作った。これらの経験は、私が日本社会により深く溶け込むことを助け、視野を広げることに役立つ。

勉強面では、日本の教育システムは細部と自己管理を重視していることに気づいた。私が異なる授業を受けて、いろんな視点から、日本社会や日本文化に対して新しい認識があった。

日本留学は貴重な体験であり、多くのことを学び、多くの友人と出会うことができた。時には戸惑いを感じることもあったが、これらの挑戦が私をより強く、成熟した人間にしてくれたと思う。この留学経験が人生に大きな影響を与えると信じている。



留学の感想

成均館大学校 全 永書

高校時代、日本語を専攻しながら日本の文化と言語に関心が多かったですが、大学専攻を他の専攻に選択するようになって高校時代の専攻に対する物足りなさが残っていました。大学に来てからは、新型コロナウイルス感染症によって正常な学校生活が難しくなり、多くの経験をしたことがないことに対する残念さと、より多くの経験を通じて成長したいと考えたりもしました。

2023年になって正常な国際交流が可能になり、この全ての物足りなさを満たすことができると期待して日本の二松学舎大学に派遣留学を申し込むようになりました。2023年秋から始めた日本での生活と二松学舎大学での学生生活は私のすべての物足りなさを満足に変えてくれた時期だったと思います。

外国で一人で生活をする、母国語ではなく外国語ですべての活動をしなければならないという負担感がありましたが、学校の国際交流センターから多くの助けを受け、学校で指定してくれた留学生バディたちと他の交換留学生の友達との交流を通じて多くのことを解決しながら豊かな経験をする事ができたという点が満足です。韓国の学校とは違うスタイルの学校、授業、文化などを経験しながら、もう少し社会を見る視線を広げることができたと思います。

特に、学校で進めてくれた学期中の交流会活動が印象的で、内向的なので先に活動を主導しにくかった私には多くの方々にお会いできて、交流できた良い機会だったと思います。個人活動とスケジュールによって何度も参加できなかった点が残念です。

大学を卒業する前に意味ある経験と思い出を共にしてくださった二松学舎大学に感謝申し上げ、これからも成均館大学と二松学舎大学間の活発な国際交流がなされればと思います。

ありがとうございます。

国際交流センターからのお知らせ

振り返る2023年度、国際交流センターは皆さまからの多くのサポートを得ながら、多彩な国際交流プログラムを実施し、豊かな成果を収めました。以下に、当センターの主な活動とその成果を総括いたします。

留学生支援プログラム

留学生のためのオリエンテーション、留学生バディ制度、就職ガイダンスを実施しました。これにより、留学生の円滑な学生生活や異文化間交流、日本での就職の促進に努めました。

海外交流プログラム

本学では初となるアメリカでの語学研修が実施されま

した。また、中国の協定校からの交換留学生を受け入れるプログラムでは、40名程度の留学生を受け入れました。

国際交流イベント

国際交流センター主催のイベントでは、国際交流の会、国際交流懇親会、日本文化体験行事など、異文化交流の魅力を経験できる様々なプログラムが展開されました。

2023年度、国際交流センターは多岐にわたる活動を通じて、異文化理解の促進や国際交流の推進に努めました。留学プログラムの開発、外国語語学学習の機会提供をはじめ、今後もグローバルに活躍したい学生のためにさまざまなサービスを提供していく計画にあります。

国際交流センターについて www.nishogakusha-u.ac.jp/international

◇本誌へのご意見・ご感想をお寄せください。 E-mail: icenter1@nishogakusha-u.ac.jp